

湘南藤沢学会「成果報告書」
地熱資源をテーマにした持続可能なエネルギー教育プロジェクト
慶應義塾大学 環境情報学部 4年 渡辺さおり

1. 活動概要

主旨：小学生に向けたローカル×エネルギーを学ぶ授業の企画・開催

日程：2016年6月11日

会場：北海道奥尻町立青苗小学校

2. 活動目的

北海道南西沖に位置する離島「奥尻島」は、23年前に被災した地震及び津波の被害と島自体の地理的制限から、人口減少に伴う経済衰退がすすむ、いわば限界集落となりつつある。しかし奥尻島には豊富な地熱資源が埋蔵しており、再生可能エネルギーの側面からは明るい未来を拓くポテンシャルを持っている。（表1）このような状況で奥尻島の人々が島の資源を活用し島を奮わせていくためには、地熱資源の存在とその有効性を認知することが大切だと考えた。そこで筆者ができることとして島の未来を担う子どもたちに向けた教育というアプローチをとり、具体的には地元小学校にてエネルギー授業を行った。授業の目的として、持続可能性について学ぶというのはもちろんのこと、授業のファシリテーターとして地元高校生にも協力してもらい、本企画の後も継続してこのような学びの場が続いていくことをねらいとした。

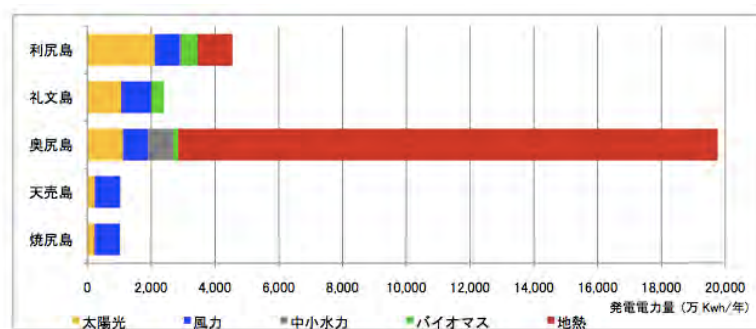


表1 平成23年度 北海道開発局 開発調査課

3. 活動成果

奥尻町立青苗小学校にて「奥尻に眠るお宝」という題目でエネルギー教育ワークショップを行った。本活動は、同校の土曜授業の一環として組み込まれ2、3時限目（9:10-10:55）を利用して行われた。題名にもある「お宝」とは、奥尻島に埋蔵する膨大な地熱資源のことを指す。子どもたちが地熱資源の存在自体と地熱資源の有効性を認識すること、及びこれを機にした島の未来への希望と誇りの養成を目的にした授業を行った。

ワークショップの構成として、前半45分は基本的なエネルギーに関する知識や地熱資源に関する知識、火力を比較対象とした地熱の有効性を学ぶため、レクチャー形式をとった。後半45分は事前に作成したボードゲームで遊び、レクチャーの内容を遊び感覚で反復できる企画を行った。（図1）このボードゲームはすごろく形式で、地熱発電が普及している1

